



Philippine Children's Project (PCP) 2019夏



DATA

■主な連携先・メンバー

Philippine Children's Project (PCP) / Cutcut Elementary School / Cuayan Elementary School / Duyan Ni Maria Children's Home (DMCH) / Holy Angel University

■活動地域

フィリピン パンパンガ州 アンヘレス市

■活動期間

2019年度～継続中

■活動資金

参加者負担／寄付

活動の目的

- 1 情操教育協力活動等を通じたフィリピンの児童の多様な能力の開発
- 2 日本での事前・事後研修とフィリピンでの諸活動を通じた日本からの参加者のコンピテンシー等の涵養

連携にいたる経緯

Philippine Children's Project (PCP)には、本学の「国際協力ボランティア実習」の実施にご協力いただいている。2019年8月のPCPの現地活動は本学の対象実習ではなかったが、本学学生の参加希望があったことから事業代表者もサポートすることとなった。

活動内容

PCPは、フィリピン児童に対する諸活動を通じて、文化・年齢・性別・国籍・能力の如何・障がいの有無等に区別されずに暮らすことができるユニバーサル社会の創造に寄与できる人づくりを目指す任意団体である。法人格・事務所・有給スタッフ等を持たないが、誰もが事前研修に参加すれば海外での技術協力を得るノウハウを有している。

日本国内での事前研修・準備を経て、2019年8月に本学学生2名を含むメンバー有志がフィリピンに赴いた。Cutcut小学校では、リコーダーを用いた情操教育協力を実践し、Cuayan小学校では防災教育と公衆衛生教育を行った。児童養護施設のDMCHでは、遊びながら児童の声に耳を傾けた。その他、本学協定校の大学生との交流やエクスカーションでは旧米空軍基地跡地、工業団地、戦跡等を訪れた。帰国後は文集やDVDの作成、あるいは発表を通じて、体験の言語化・文字化・映像化に取り組んだ。



活動の成果

- 1 Cutcut小学校では、対象児童がリコーダーの課題曲をマスターする過程を通じて技術協力を実践できた
- 2 Cuayan小学校では、公衆衛生教育と防災教育を実施することで課外教育に貢献することができた
- 3 基地跡地や戦跡に関する事前学習と現地訪問を通じて、異なる立場や視点があることを理解できた

今後の課題・目標

- 1 PCPが2018年に受賞した「自由都市・堺 平和貢献賞」の賞金を原資とするDMCHの児童・生徒・学生を対象とした奨学制度の充実
- 2 事業継続のための無給コアスタッフの育成・獲得
- 3 自治体や他のNPO等との連携の促進

教員紹介



■国際部 教授

流転を経て関西大学に至る。つなぐこと(グローカリズム、社学連携、産官学NPOの協働、理論と実践のリンク)を心掛けている。「国際協力サービスラーニングプログラム」を担当。

澤山利広

Toshihiro Sawayama